

2012年10月の東北地方の天候

【10月の特徴】

○気温は高く、日照時間は多かった

(1) 2012年10月の概況

この期間、気圧の谷と高気圧が交互に通過したため、天気は数日の周期で変わった。中旬には、東北南部を中心に高気圧におおわれ晴れの日が続いた時期があった。月を通して平年より暖かい空気におおわれたため、気温は高くなり、むつで10月の月平均気温の高い方からの1位の値を更新した。中旬と下旬には、一時的に寒気が流れ込み、初冠雪を観測した山があった。

月平均気温は東北北部でかなり高く、東北南部で高い。月降水量は平年並。月間日照時間は多い。

(2) 各旬の天候経過

上旬：期間の中頃までは、台風や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多かったが、期間の終わりは移動性高気圧におおわれ晴れた。台風に向かって南から暖かい空気が流れ込んだ時期があり、気温はかなり高くなった。1日には、日最高気温がむつで25.5℃、大船渡で27.8℃、石巻で27.8℃となり、それぞれの地点で10月の日最高気温の高い方からの1位の値を更新した。また、日最低気温は新庄で18.7℃、大船渡で19.6℃となり、それぞれの地点で10月の日最低気温の高い方からの1位の値を更新した。

1日は台風第17号が東北地方を縦断した影響で東北北部を中心に大雨となり、岩手県では日降水量が100ミリを超えたところがあった。3日から4日にかけては台風第19号が日本の東を北上した影響で、東北太平洋側で大雨のところがあった。5日は気圧の谷の影響で、山形県で大雨のところがあった。

平均気温は東北北部でかなり高く、東北南部で高い。降水量は東北日本海側で少なく、東北太平洋側で平年並。日照時間は東北北部で平年並、東北南部で少ない。

中旬：この期間、東北北部は気圧の谷と高気圧が交互に通過したため、天気は数日の周期で変わった。東北南部は高気圧におおわれ晴れの日が多かった。

寒冷前線の影響で、11日は秋田県と宮城県で、17日は青森県、秋田県、福島県で大雨のところがあった。

平均気温は東北北部で高く、東北南部で平年並。降水量は平年並。日照時間は東北北部で多く、東北南部でかなり多い。

下旬：この期間、気圧の谷と高気圧が交互に通過したため、天気は数日の周期で変わった。暖かい空気におおわれ気温は高くなった。

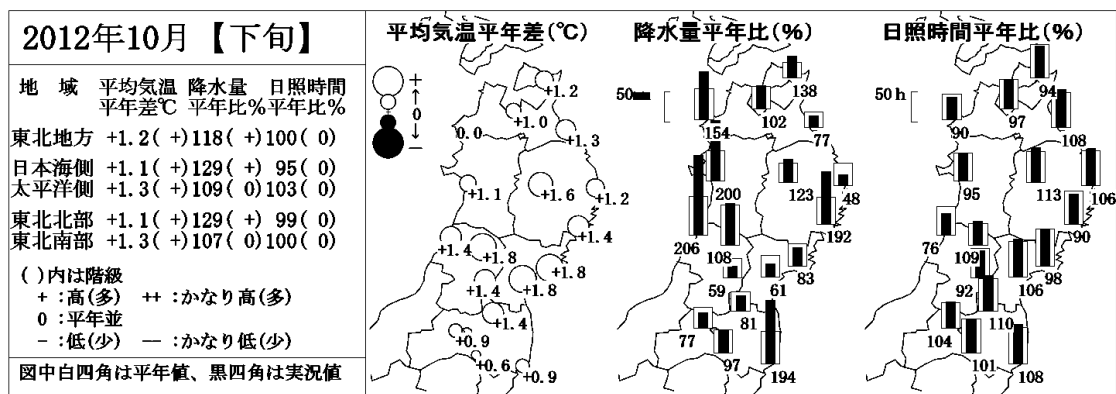
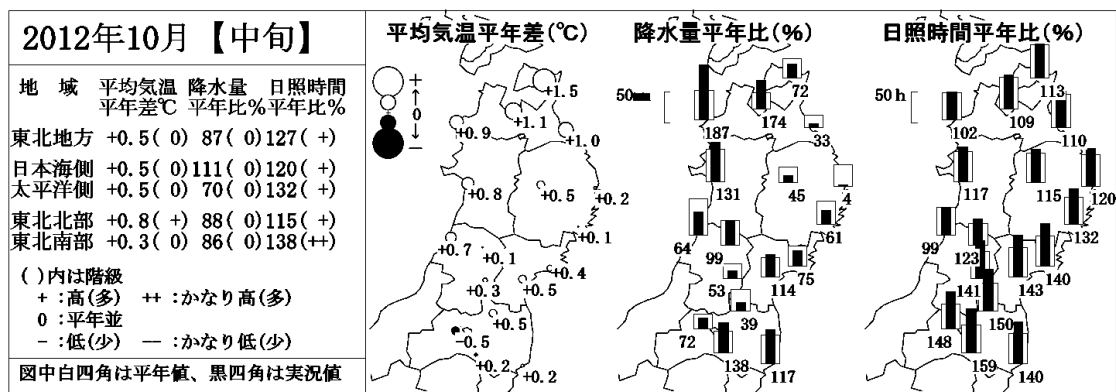
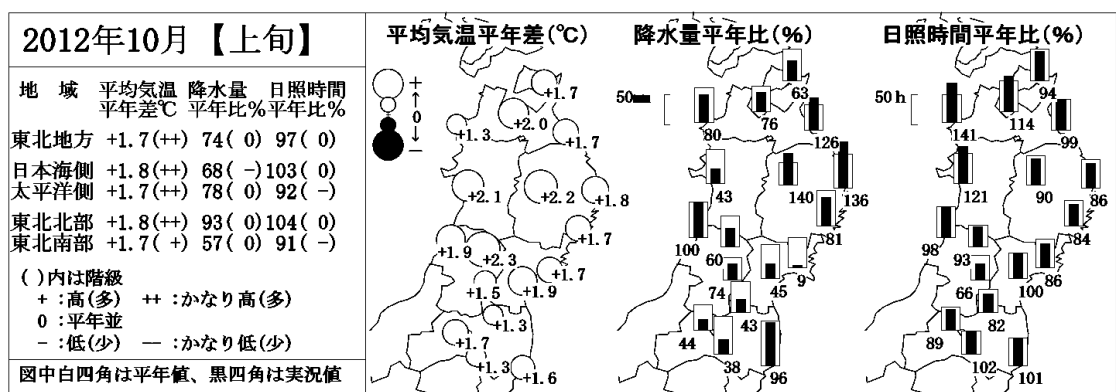
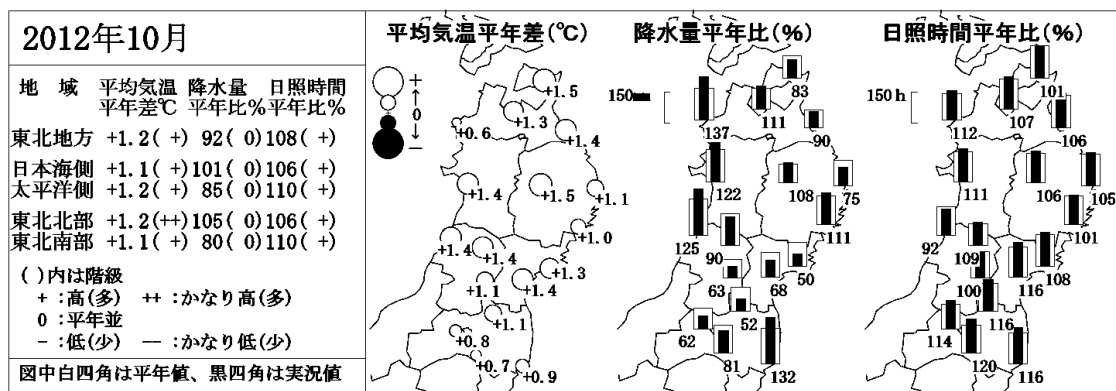
21日と23日は寒冷前線の影響で、東北日本海側を中心に大雨のところがあった。25日は寒気を伴った気圧の谷の影響で、秋田県で大雨のところがあった。28日から29日にかけては低気圧が日本海を北東に進んだ影響で、各県で大雨のところがあった。31日は気圧の谷の影響で、宮城県で大雨のところがあった。

平均気温は高い。降水量は東北北部で多く、東北南部で平年並。日照時間は平年並。

(注) 気候統計値は、東北地方にある17地点の气象台、特別地域気象観測所の観測値より求めています(速報値)。細分地域については2ページ目脚注を参照して下さい。気温の高い・低い、降水量、日照時間、降雪の深さ合計の多い・少ないは、特にことわらない限り平年と比較した階級を表します。平年値の統計期間は1981～2010年です。階級区分については、3ページ目脚注2を参照して下さい。

本件に関する問い合わせ先：仙台管区气象台技術部気候・調査課統計係（電話：022-297-8110）

(3) 2012年10月の月・旬平均気温の平年差、降水量・日照時間の平年比



平年値の統計期間は1981～2010年。

(注) 細分地域

東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北北部：青森県、秋田県、岩手県

東北南部：宮城県、山形県、福島県

(4) 2012 年 10 月の月気候表

地 点 名	平均気温(平年差) 階級			降水量(平年比)階級			降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比) 階級		
	(°C)	(°C)		(mm)	(%)			(h)	(%)	
青 森	14.4	(+1.3)	＋＊	115.0	(111)	＋	17	160.3	(107)	○
深 浦	14.1	(+0.6)	＋	213.5	(137)	＋	17	146.3	(112)	＋
む つ	13.9	(+1.5)	＋＊	91.5	(83)	○	15	160.4	(101)	○
八 戸	14.4	(+1.4)	＋＊	78.5	(90)	○	7	170.6	(106)	＋
秋 田	15.4	(+1.4)	＋＊	191.5	(122)	＋	17	161.9	(111)	＋
盛 岡	13.6	(+1.5)	＋＊	100.5	(108)	○	9	154.8	(106)	○
大 船 渡	15.0	(+1.0)	＋	155.5	(111)	○	8	142.6	(101)	○
宮 古	14.4	(+1.1)	＋＊	94.5	(75)	○	9	162.5	(105)	○
仙 台	16.6	(+1.4)	＋＊	82.5	(68)	○	12	172.3	(116)	＋＊
石 巻	15.8	(+1.3)	＋＊	59.5	(50)	－	7	168.0	(108)	○
山 形	14.7	(+1.1)	＋	58.5	(63)	－	12	132.6	(100)	○
新 庄	14.1	(+1.4)	＋＊	141.0	(90)	○	18	115.0	(109)	＋
酒 田	16.5	(+1.4)	＋＊	226.5	(125)	＋	19	129.7	(92)	－
福 島	16.2	(+1.1)	＋	62.0	(52)	－	9	157.3	(116)	＋
若 松	14.3	(+0.8)	＋	62.5	(62)	－	11	138.4	(114)	＋
白 河	14.2	(+0.7)	○	109.5	(81)	○	9	165.7	(120)	＋＊
小 名 浜	17.3	(+0.9)	＋	229.5	(132)	＋	11	177.6	(116)	＋

(注) 1. 平年値は 1981～2010 年の資料から求めた。

2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。

＋:高い(多い) ○:平年並 －:低い(少ない)

各階級の区分値は、1981～2010 年における 30 年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が 10 個ずつになる)ように決めた。

また、値が 1981～2010 年の観測値の上位または下位 10%に相当する場合には階級の「＋」に ＊ を付加した。この場合には

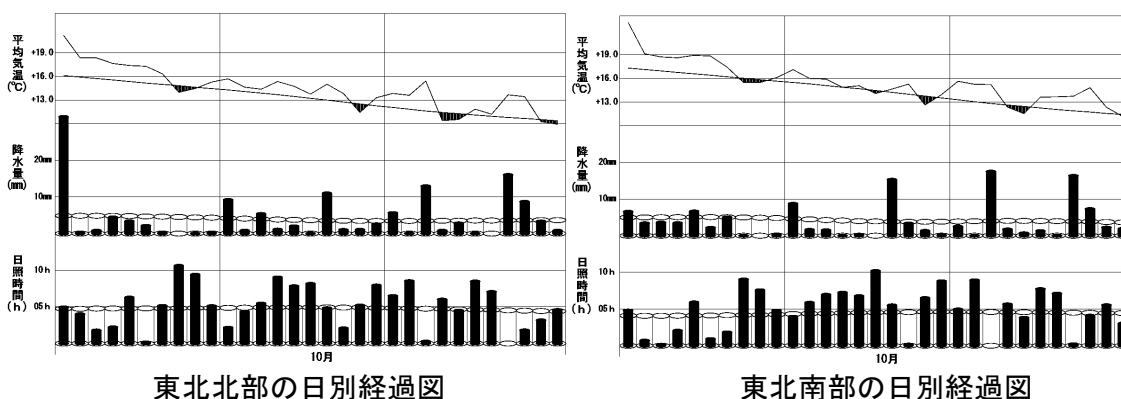
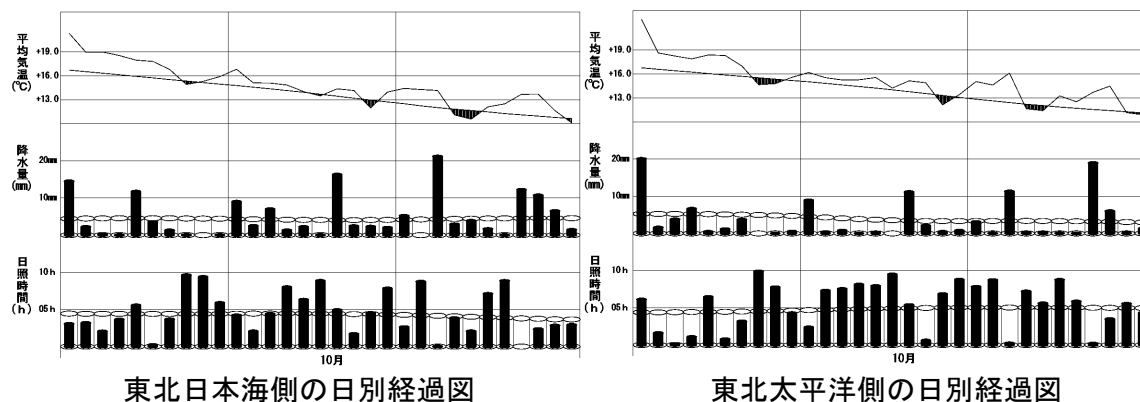
かなり高い(多い) かなり低い(少ない)

と表現できる。

3. 値の横に) や] がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができるが、]付きの値(資料不足値)については、統計に用いる観測資料数が不足しているため、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にして使用されたい。

なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

(5) 2012 年 10 月の日別経過図



気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均（気温：実線と点線、降水量・日照時間：黒い円柱と白抜き円柱）
気温の陰影は平年値より低いことを示す。

(6) 2012 年 10 月の極値・順位の更新

※順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。

月平均気温高い方からの順位更新

順位	地点名	平均気温 ℃	平年差 ℃	これまでの最高 ℃（西暦年）	開始年	平年値 ℃
1	むつ	13.9	+1.5	13.8（1998）	1935	12.4
2	新庄	14.1 =	+1.4	14.5（1998）	1957	12.7
	青森	14.4	+1.3	14.9（1998）	1882	13.1
	酒田	16.5	+1.4	16.9（1998）	1937	15.1
	仙台	16.6 =	+1.4	16.8（1998）	1926	15.2
3	八戸	14.4	+1.4	14.5（1998）	1936	13.0
	秋田	15.4	+1.4	15.9（1998）	1882	14.0

月平均気温低い方からの順位更新

3位以内はなし

月降水量多い方からの順位更新

3位以内はなし

月降水量少ない方からの順位更新

3位以内はなし

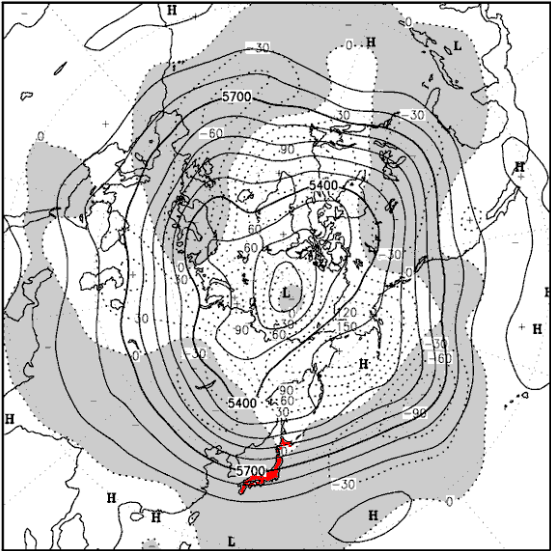
月間日照時間多い方からの順位更新
3位以内はなし

月間日照時間少ない方からの順位更新
3位以内はなし

(7) 2012 年 10 月の循環場の特徴

500hPa 高度は、中緯度帯が広く負偏差となり、亜熱帯ジェット気流は南に偏って流れた。モンゴル付近とアリューシヤンの南で偏差が大きく、日本付近の偏差は小さかった。また、日本の南も負偏差で、上旬は日本の南から本州付近へ台風が北上した。一方、ベーリング海付近に中心をもつ正偏差が日本の北に広がった。

東北地方は、気圧の谷と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変わった。暖かい空気におおわれ、寒気の影響は小さかった。



2012 年 10 月の平均 500hPa 高度

実線は高度(m)、間隔 60m。点線は偏差(m)、間隔 30m。
陰影部は負偏差（寒気に対応）。

(8) 2012/2013 年寒候期 季節現象

11 月 1 日 15 時現在の状況

2012/2013年寒候期 季節現象(初日)									
官署名	初 霜			初 氷			初 雪		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
青森	10. 27	10. 29	10. 28		11. 3	11. 18		11. 6	11. 15
秋田		11. 11	11. 18		11. 17	11. 18		11. 13	11. 15
盛岡	10. 27	10. 22	11. 10		10. 27	11. 10		11. 8	11. 15
仙台		11. 10	11. 18		11. 21	11. 26		11. 24	12. 1
山形	10. 30	10. 30	11. 10		11. 1	11. 11		11. 18	11. 16
福島		11. 9	11. 18		11. 14	11. 27		11. 26	12. 9

初冠雪									
山岳名	海拔(m)	本年	平年	昨年	山岳名	海拔(m)	本年	平年	昨年
ハッコウダサン	1585	10. 19	10. 17	10. 3	ガンドサン	1485		10. 29	11. 10
八甲田山	1625	10. 24	10. 21	10. 3	雁戸山	1362		10. 30	11. 15
イワキサン	1171		11. 2	11. 15	リュウザン	1175		11. 6	11. 16
岩木山	2038	10. 13	10. 13	10. 2	イズミガタケ	1841		10. 24	10. 4
タイヘイザン	1984	10. 24	10. 18	10. 3	蔵王山	1949		10. 23	10. 3
イワテサン	1871	10. 24	10. 22	10. 3	アヅマヤマ				
岩手山					吾妻山				
ガッサン									
月山									
アサヒダケ									
朝日岳									

(注) 蔵王山は熊野岳、吾妻山は一切経山の標高を示す。